



可動式コラムによる空間の自由なレイアウト



遠隔会議スペース



研究用超高速ネットワークJGN2にも直結

秋葉原ユビキタスネットワークテストベッド

ユビキタスコンピューティング環境の最大の特徴は、実世界に存在するハードウェア、仮想世界に存在するソフトウェアを含めた、あらゆるオブジェクトがネットワーク接続され、それらの有機的なつながりによって、利用者の好みや状況に応じたコンテキストウェアサービスの実現が可能となる点にある。

ユビキタスネットワーク社会におけるアプリケーションが既存のアプリケーションと決定的に差別化できることを示すためには、プロトタイプアプリケーションを実装し、これを実際に使用なが

らその有用性を示す必要がある。また、実証実験を通じてこれらのアプリケーションを支える技術的基盤のあり方や新たな技術課題を実践的に発見し解決していくことも重要である。

東京大学 青山・森川研究室では秋葉原ダイビル拠点をユビキタスネットワーク実現のための実証実験スペースとして位置づけている。本拠点では、総務省委託研究であるUbilaプロジェクトの研究成果を中心に、コンテキストウェアアプリケーションや、センサネット、次世代型エンタテインメントアプリケーションを

際に環境内に設置し、検証している。本テストベッドは研究用超高速ネットワークJGN2を用いて東京有楽町の慶應大学uplateaや福岡県北九州市の九州工業大学テストベッドとも高速に接続されている。また秋葉原という地の利を生かし、組織横断的かつ学際的なユビキタス実証の場とすることも目指している。

